

早水組が小学生招き体験学習

「工事をする車」間近に 農地造成の現場で迫力実感

開催した。

現場はオホーツク総合振興局調整課発注の畑地帯支援網走南部西地区61工区。現場代理人を務める同社土木本部の大友靖浩係長らが「建設機械の迫力を体感しながら、建設業に少しでも興味をもってもらえたら」と前年に続いて、現場に近い網走市立白鳥台小学校の一年生三人を招待した。

大友係長をはじめ、同社役員十二人が案内役を務めたほか、工事を所管する東部耕地出張所から木村伸幸所長ら職員五人がオプザーバーとして参加した。「学習指導要領を参考に

しを守る、工事をする車の四つに分類するパネルを用意し、「きょう見学するのはブルドーザーや油圧ショベルなど工事をする自動車」と子どもたちの興味を引きつけた。

「動いているところを見てみよう」と、小高い丘から実際に稼働している重機を見学。グラウンド三個分の農地造成を目の当たりにした子どもたちは「本物はすごく大きいんだね」などと歓声を上げながら、そのスケールの大きさを感じていた。また、ブルドーザーと油圧ショベルの試乗にも挑戦した「写真」。

休憩場所では、様々な車両の写真六十四枚を掲示した「はたらくるま」コー

ナー、手作り模型二十台を展示したスペースなどを設けて工夫を凝らした。学習を見守っていた潮田信校長は「夏休み明けに国語科で働く自動車という単元がある。今回はそのプレ学習にもなる。児童の保護者は農家が多いが、畑がどうやって作られているのかを知る良い機会になったのでは」とコメントした。



【網走発】網走市内で道営農業農村整備を請け負う(株)早水組(網走、早水誠社長)は二十四日、地元の小

学一年生を現場に招待し、体験学習「働く自動車」を
「学習指導要領を参考に
した」という大
友係長は、水道
や道路、橋梁、
河川、港湾など
様々な工事を紹
介した上で「働く
自動車」につ
いて説明。八種
類の自動車カ
ードと、人を運ぶ
物を運ぶ、暮ら